

連載  
これでいいのだ!



## レポート作成

第5回  
さあ!  
書いてみよう



山田真佐美

地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
大阪府立成人病センター 主任看護師

大阪府出身。1987年、大阪府立成人病センター就職。  
同センター附属高等看護学院、大阪府立千里看護専門学校で計11年間、専任教員として看護教育に携わる。  
学生指導のための実証的看護研究「看護学生の茶髪はどこまで許せるか? (2001年)」は、ユニークな視点がマスコミからも注目される。理論と実践の融合を目指し、2006年4月から再び同センターにてがん看護に従事。  
臨床看護師の知られざる努力を世に伝えるべく執筆活動にも取り組んでいる。  
看護研究推進のノウハウの著作多数あり。現大阪女子短期大学非常勤講師(救急処置担当)。社交ダンス教師の資格を持つ踊れる看護師。

秋ですね。食欲の秋、スポーツの秋、実りの秋、物思秋…。あなたの秋はどの秋ですか?

「これでいいのだ! レポート作成」。今回は、いよいよナナがレポート作成に取り組みます。先輩看護師みどりのアドバイスを基に、「自分が苦手だと思っていた△△さんとの人間関係が変化したのかはなぜか?」を、まとめてみようと思ったナナ。何とか書けそうなところまでできたのですが、実際書きはじめてみると、また問題が出てきたようです…。



## レポートの構成要素

勤務終了後、ナナがみどりに話し掛けます。

ナナ：みどり先輩。ケースレポートって、学生の時に書いたのと同じような感じでいいんですよね？

みどり：同じような感じって…？

ナナ：えーと、ナナちゃんノート（かばんの中を探す）。

みどり：ナナちゃんノート？ 何、それ？

ナナ：やだなあ。先輩に言われて、ケースのために作ったメモ用ノートですよ！  
レポートの構成要素は、「タイトル」「はじめに」「事例紹介」「看護の実際」「考察」「結論」「おわりに」「文献」ですね！

みどり：そのとおり！

ナナ：で、何を書けばいいんですか？

みどり：何だ、それ??

テーマに沿った自分自身の考察がある程度深まったら、レポートの作成に取り掛かりましょう。レポートの構成は、発表する場によって多少の違いがあります。作成指針を早めにまとめて、その項目に何を書くのか、大筋を決めておきましょう。基本的な構成要素と考え方のポイントを次に記します。

## 1) タイトル

レポートの看板のようなものです。一般的には25文字以内が適当とされています。タイトルだけで表現し切れない場合は、サブタイトルを用います。

レポートを書いていくうちに、最初に付けたタイトルと内容が合わなくなっていくことはよくある話です。考え過ぎると筆が進まなくなってしまうので、まずはレポートを最後まで書き終え、その後で、全体を読み返して、最終的にタイトルを再検討すると良いでしょう。

## 2) はじめに

なぜこの研究テーマを選んだのか、このレポートで何を明らかにしたいのか、動機と目的を記述します。起承転結スタイルで書くとまとめやすいでしょう。

### 【起】

おとぎ話なら、「昔々、あるところに…」で始まる定番の部分です。また、ここでは登場人物や場面を紹介する部分でもあります。

レポートの場合は、そのテーマに関して、世間に周知されていることや文献で共通認識されていることを記述すると書きやすいでしょう。

### 【承】

「起」で紹介した話の内容を進め、「転」に向けて読み手の理解を助けるように話を続ける部分です。

### 【転】

話の中で大きな転機を見せる部分です。「順調に出航した船が（起）悪天候に見舞われ（承）沈没する（転）」など、ドラマや映画で言えば、クライマックスの部分に相当します。

ケースレポートならば、今回の主軸となる事例が登場するところです。ナナふうに言えば、「世間一般的にはこうで（起）、うちの病棟でもこうなんだけどお（承）、今回はこんな患者さんに出会って、こんなことがあったんだよお！（転）そこで…（結）」という感じで、結末へとつながっていきます。

### 【結】

ドラマや映画で言うエンディングに当たります。ケースレポートの場合は、このレポートを読めば、何が分かるのかを伝え、話を締めくくる部分です。

一番分かりやすい例は、4コマ漫画でしょう。短時間で商品をアピールしたいTVコマーシャルの構成も、起承転結の手法が用いられていることが多いようです。

### 3) 事例紹介

読み手が患者像をイメージできるような情報を述べる部分です。ここでは、ケースレポートの内容と関係する情報のみに絞ることが必要です。事例が特定できないように、倫理的な配慮を欠かさないようにすることも大切です。

### 4) 看護の実際

テーマに関連する部分の看護展開をS情報、O情報を交えて客観的に記載します。ここで述べるのは事実のみとなるので、記載は過去形でまとめるようにしましょう。

### 5) 考察

考察は、レポートの要となる部分で、行った看護とその結果を論理的に分析し、テーマに沿った結論を導き出す部分です。導き出した結論が自分の思い込みや一人よがりにならないように、文献を活用し、事実を基に自分の意見を述べます。

分量は、レポート全体の3分の1から4分の1を目安とします。文献から引用した部分は、「」でくくり、一字一句間違いなく原文のまま記し、レポートの最後に提示する文献一覧と対応させた番号を右肩上に付けます。

### 6) 結論

考察の結果得た答えを簡潔に記します。レポートを書き終えたら、「タイトル」「はじめに」「結論」の部分だけを抜き出して読み、筋がとれているかを確認すると良いでしょう。

### 7) おわりに

今後の課題や展望について述べ、謝辞を記してもよいでしょう。

### 8) 文献

レポートを作成するに当たり、引用や活用した文献の一覧を明示します。

ナナ：ふーん。項目ごとに書くべき役割が決まっているんですね。起承転結って  
いうのは、レポート全体の構成もそうなっているんじゃないですか？

みどり：おつ、鋭い。「はじめに」で、話を起こして、「事例紹介」から「看護の



実際」で話を受け継いで、「考察」がレポートのクライマックス！ 「結論」は話のオチの部分だから、実はこの「結論」を言いたいがために、長々と前置きを書くっていうわけ。つまり、結論のために必要な内容の「考察」「看護の実際」「事例紹介」「はじめに」「タイトル」があればいいってことなんだよ。

ナナ：じゃあ、結論から書きはじめてもいいんですね。

みどり：そのとおり。レポートを書く時のポイントは論旨一貫性で、どの部分を読んでもテーマに関して話の筋が一本通っていることが大切なんだよ。まずは、ナナちゃんノートに目標規定文<sup>1)</sup>と結論を書き留めてから、内容を書いていくといいよ。

ナナ：目標規定文って何ですか？

みどり：「自分は何を目標としてこのレポートを書くのか、そこで何を主張しようとするのか」を書いた文章のことだよ。レポート構成の「はじめに」に相当する重要なものだよ。

ナナ：それぞれの項目をどれくらいの分量で書けばいいんですか？

みどり：レポートの指定はないの？

ナナ：発表が10分なんですけど。それ以外はないんですよ。

みどり：テレビのアナウンサーは、ニュースを読み上げる時、10分間に400字詰め原稿用紙7～8枚のテンポで読み上げるのが標準なんだって。発表する時は、論文調の原稿を話し言葉に書き換えるから、10分なら、「おわりに」までで6～7枚あれば十分なんじゃない？

ナナ：何だ、意外と少ないですね。

みどり：…あんた、何枚書く気だったの？ さっきのルールから考えると、メインの考察が1枚半～2枚くらい。後はそれぞれ1枚弱でいいんだよ。うまく書けなくてもいいから、まずは「はじめに」から「おわりに」までを一気に書き上げてみるのがポイントだよ。

ナナ：分かりました、やってみます。



### 書く時の注意点① 一文のねじれ・代名詞の考え方

1週間後、約束の時間にナナが現れました。

ナナ：先輩！ 書いてみたんですよ！ 見てもらっていいですか？

みどり：やったね！ どれどれ，拝見。

### 共感的看護をとおして

#### 一足浴の援助を通して患者との関係が変わったこと一

はじめに

効果的なコミュニケーションの基本的要素となるのは，患者に対して共感的な反応を示せる援助専門職としての能力であり，援助関係にはコミュニケーションが不可欠なものである。

今回，閉塞性黄疸のため入院した患者を担当した。担当当初は，援助を提案しようとしても断られることが多く，なぜだろうと思っていたが，ある援助をきっかけに患者との関係が変わった。それにより分かったことを報告する。

みどり：うーん…，まず文章の書き方がまずいよね。

ナナ：えー，そうですか？

みどり：最初の一文だけど…，前半の主語は「コミュニケーションの基本的要素となるのは」なのに，後半の主語は「援助関係にはコミュニケーションが」になってるよ。こんなふうに，一つの文の途中で主語が入れ替わった文を「ねじれた文」<sup>2)</sup>って言うんだよ。主語と述語があるから，一見もっともらしく見えるんだけど，文がねじれると読みにくいんだよ。文のねじれを起こさないためにも，「文は短く」「一文一主語」の鉄則を守らないといけないよ。

ところでナナちゃん，このレポートでは，共感的看護について述べたかったの？ 書き出しは「コミュニケーションの基本的要素」について述べているし。筋書きがバラバラだよ。目標規定文を見直してみて。

ナナ：目標規定文…っと，あった！ 書くべきことは，「患者との援助的關係を成立するために必要な看護者の態度について，ロジャーズの人間關係論に基づき分析し，学んだことをレポートする」でした。

みどり：じゃあ，起承転結の起，つまり書き始めは「援助的關係とは…」くらいになるんじゃない？ 目標規定文をにらみながら書かないと，いろんな言葉が混じってしまうよ。

ナナ：なるほど。

みどり：文中の「なぜだろうと思っていた」は話し言葉だから、「疑問に感じていた」と文語体の表現に直した方がいいよ。「それにより」「このことから」などの代名詞は、読み手が一つ前の文に戻って、何を指しているのかを探さないといけないよね。A→B→C→Dのように、話が一方方向に進むのが分かりやすい文だから、代名詞を用いないように心掛けるといいよ。

「はじめに」の「転」の部分では、△△さんの状態や、どんなところに疑問を感じたのか、もう少し具体的に表現してみようよ。

ナナ：分かりました。



## 書く時の注意点②

### —倫理的配慮・助詞の使い方

#### I. 事例紹介

年齢・性別：72歳，女性

診断名：イレウス，閉塞性黄疸

入院までの経過：入院2日前の夜から下痢2回あり。その後，腹痛を伴い自宅にて様子みる。翌日，近医受診し，漢方処方，点滴施行するが，腹痛自制不可となり救急外来受診する。

…中略…

社会的側面：一軒家に1人暮らし。チョコレートをよく食べている。

みどり：うーん…。まず，個人情報に記載されていて，倫理的配慮が欠けているよ。

ナナ：えっ？ あっ，年齢ですね！ そうか，70歳代とか，前期高齢者でしたね。

みどり：次に，カルテふうの記載はレポートとして通用しないよ。修正するとこんな感じかな。

入院までの経過：入院2日前の夜から下痢が2回あり，腹痛を伴い自宅にて様子みる。翌日，近医受診し，漢方薬を処方された。点滴施行するが（主語は誰？ 何の点滴？）同医院で鎮痛剤の点滴を受け帰宅したが，夜間に腹痛自制不可増強し，

救急外来を受診した。

ナナ：ちょっと修正するだけで、すいぶんレポートっぽくなりますね。

みどり：助詞をきちんと用いること。何度も言うけど、主語を明確にね。入院までの経過は事実の記載なので、文尾は過去形になるよ。

あと、「チョコレートをよく食べている」というのは、一体何を言いたいわけ？

ナナ：食事制限があった時でも、隠れて食べていて、スタッフに怒られてたじゃないですか。それですよ、それ。

みどり：これじゃ、全く伝わらないよ。ナナは△△さんのことをよく知っているけど、読み手は全く知らないんだよ。どんなエピソードを紹介すれば、読み手が人物像をイメージしやすいのか、内容をよく吟味する必要があるよね。



### 書く時の注意点③

—事実と意見・受身の文・接続詞・あいまいな表現・感想

#### Ⅱ. 看護の実際

担当初日、△△さんの病室に訪室するが、「しんどいから寝ます。私はいいからほかの人のところに行ってください」と、拒否する様子が見られた。その後、ロビーでほかの看護師と話をしている姿が見られた。

△△さんは担当時、全身の皮膚が極度に乾燥し、垢がたまっていた。また、△△さんの夜間不眠が問題になっていたため、保清のプランを挙げた。

担当5日目、△△さんに足浴の説明を行い許可もらう。口頭で説明したため、あまりはつきりと理解されていない様子だった。援助中、「気持ちいいわあ、人に足洗ってもらうなんて初めて。孫と同じ年くらいの子に悪いわあ」とすごく満足されていた。

担当6日目、「昨日はぐっすり眠れたよ」と発言があり、笑顔も見られてうれしかった。

…中略…

みどり：うーん。これもまた…。

ナナ：おかしいですか？

みどり：改善のポイントを言うよ。

「拒否する様子が見られた」っていうのは△△さんの行動を見た結果、ナナが判断したこと、すわなち意見だよね。看護の実際では、**事実を客観的に描写**すればいいから、ナナが△△さんに拒否された！と、感じた時の△△さんの言葉、表情、声のトーンや周囲の状況を書くんだよ。

次に、**受け身の表現の問題**。「見られた」の主語は誰？

ナナ：主語？ 誰でしょう…？

みどり：「見られた」「～と考えられる」などの受身文も、便利だからよく使われるんだけど、**はっきりと言い切る姿勢を大切に**するレポートでは、**受動態の表現は不適切**なんだよね。

「見た」「～と考える」と書き直した方が、主語が明確になるし、歯切れ良く、文も短くなるよ。**能動態での表現を心掛けてね**。

ナナ：なるほど～。そう言われてみると、確かにそのとおりですね。

みどり：△△さんの状態と、保清プラン立案との関連性も分かりにくいよ。△△さんはなぜ不眠になっていたのか？ 保清プランを立案するまでの**経緯を**、時間を追って、**順番に表現**すると、「また」「そして」などの**接続詞は不要**になるよ。

「あまり」「すごく」などの**あいまいな表現は避ける**こと。「うれしかった」などの**感想はNG**！

レポートは、自分の思いを満たすために書くものではないからね。感情よりも**事実**を書くようにしよう。じゃあ、この文も。主語を明確に、正しい表現に直してきてね。

「△△さんは担当時、全身の皮膚が極度に乾燥し、垢がたまっていた。」

ナナ：うわっ。宿題？ でも、頑張りまーす。ナナ、負けない！

みどり：ここまで来たら、その明るさは貴重だよ。

引用・参考文献

- 1) 木下是雄：理科系の作文技術，第54版，P.22，中公新書，2006.
- 2) 前掲1)，P.124.